

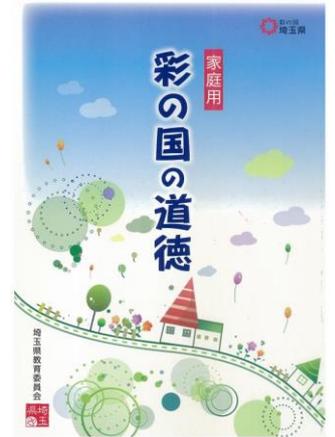
# ほっと ハート

## 道德って何の時間？「彩の国の道德（家庭用）」の活用を

道德の時間…と聞くと、保護者の皆様はどんな時間という印象をお持ちでしょうか。この時間は何のための時間なのでしょう。

「人はだれもが素晴らしい人生を送りたいと願っています。自分が人間としてどのように生きるべきかを考えることはとても大切な事です。そのために、学校には、国語や算数の授業と同じように、週に1回「道德の時間」の授業があります。」

これは、小学校入学時に各家庭へ配付される、「彩の国の道德（家庭用）」の冒頭に書かれている文章です。



道德の時間では、読み物や映像などの登場人物の気持ちなどを考えることを通して、自分の心の中を見つめていきます。主人公の気持ちだけではなく、時には主人公に関わる親の気持ち、友達の気持ち、親切をした相手の気持ち…様々な立場の人の気持ちを考えることで、道德的価値について様々な角度から考えていきます。また、友達同士で自由に語り合う中で、自分の心にはなかったたくさんの考え方に出会うことになります。その中で、自分は人間としてどのように生きていきたいのか、そして、たくさんの考えの中から自分の生き方に活かせるもの・活かしたいものを見つけていく時間です。

道德の時間は、「心のものさし」に1時間ごとにめもりを刻んでいくようなもの。一生懸命に考えたからと言って、すぐに子供たちの行動が変化していくわけではありません。ですが、この1時間に価値について考え抜き、自己と対話した経験は、子供たちの心のものさしにめもりを刻み、長い人生の中で様々なことを経験する子供たちを助ける「心のものさし」となっていくはずで

週に1時間だけの大切な時間を、柏原小学校では「心をきたえ、自分を輝かせる時間」として、より良い道德の時間を作っていきたいと思ひます。

この冊子には、各学年の「彩の国の道德（学校で使用している埼玉県の道德資料）」の読み物資料が掲載されています。また、埼玉県の偉人の紹介や传统文化の紹介、子育てに関するコラムなど、ご家庭でも活用していただける資料が盛りだくさんです。ぜひ手に取っていただき、お子様と一緒に考える機会としていただくと良いのではと思ひます。

## 書けなかった二文字・・・だけど・・・

校長 井上 健

大好きなもののナンバーワン！それは、「野球」。

そんな子供のころの私。私の住んでいた町は、ソフトボールが盛んなところでした。大人も子供も自治体ごとにソフトボールチームがあり、私は小学3年生からチームに入り、4年生から試合にも出させてもらえました。子供のチームは毎年、夏休みに大きな大会があり、どのチームもその大会に向けて、日曜日と夏休みに入れば毎日練習がありました。朝6時からの練習は、休むことなく、遅れることもなく参加し、毎週土曜日の夜はそわそわしながら、9時には布団の中に入っていたものでした。

6年になってからは、キャプテンとして、下級生の面倒をみながらも、自治会のいろいろな大人の方々から声をかけてもらい、練習の時間がさらに楽しくなったものです。最後の大会では、2回戦で負けてしまいましたが、とても充実した時間を過ごすことができました。

また、その頃の遊びは、テレビゲームなどない時代ですから、もっぱら「野球三昧」でした。人数が揃わなくても、道具が無くても、学年が違ってても野球をしていました。

ボールがなければ、新聞紙を丸めてボールにしたり、雨が降れば、家の中で、ピンポン玉を鉛筆バットで打ったり、チーム間で力の偏りがある場合には、特別ルールを作ったりして野球をしていました。また、的当てや的倒し、投げるだけではなく打つて的を狙う遊びもしていました。

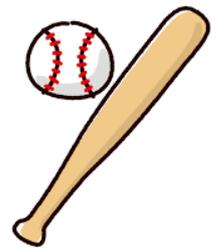
大好きな野球をするために、飽きることなく工夫しながら遊んでいる毎日だったのです。

前置きは長くなりましたが、そんな私が、中学生になり、部活動は、もちろん「野球部！」・・・と言いたいところでしたが、

実は、野球部に入れなかった（入らなかった）のです。

入学前から、部活は野球部と決めていました。しかし、入学後、「入るのは野球部なのだから、仮入部期間だけは、違うスポーツをやってみよう！」と思い、バレーボール部に仮入部したのです。1年生の仮入部員は5人いました。

2～3週間の仮入部期間中は、優しい先輩たちに囲まれて、バレーボールの楽しさを味わわせてもらいました。練習最終日になりました。練習後、私たち1年生は、お世話になった先生、先輩方にお礼を言いました。すると、先輩と顧問の先生が、私たちに向かって、頭を下げたのです。「ぜひ、バレーボール部に入ってくれ！」。定年前の怖くて有名な顧問の先生が、「頼む！」と言って、私たちは懇願されたのです。



そして、私が、後日提出した入部用紙には、「バレーボール」の文字が書かれていました。（ちなみに、5人とも入部しました。）

その後、卒業までバレーボール部に所属しました。最後の一年間は、レギュラーとしてセッターの楽しさを覚えながらプレーしていたことは事実です。その当時、ちょうど、ワールドカップが日本で開催され、バレーボールブームが沸き起こり、体育の授業で輝くことができたのも事実です。

**しかし！**部活動中に、体育館からグラウンドの野球部員の姿に、いつまでも憧れの強いまなざしを向けていたことこそ、最大の事実です。あの時、あの紙に、なんで、「野球」と書けなかったのだろうか。今でも、その当時の悔やんだ思いは忘れることができません。

時は経ち。あの時から40年余り。実は、今、野球に触れています。高校卒業と同時に、ソフトボールではありますが、あの時の野球部の同級生らとチームを作り、そのチームで今も、怪我をしない程度に思いっきりプレーしています。（今シーズンの大会は、すべて中止になりました。）

もしかして、あの悔しい時があったから、今も野球に触れることができているのかもしれない。